

最も大切なこと

コリント人への手紙第一 15章 1-5節

はじめに

私が月の第二週に説教をする時は、「コリント人への手紙第一」から説教をしています。これまで1章から少しずつ学んできましたが、今日から15章に入ります。今日の聖書箇所パウロは、「福音」について語っています。

1. 福音によって救われる

1節にはこうあります。「**兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです**」。コリント教会は、パウロが語った「福音」を受け入れ、その「福音」の上に教会を、また一人ひとりの人生を建て上げていました。

しかしパウロはここで、もう一度コリント教会に「福音」を伝えようとしています。これには事情があります。コリント教会の中には、「**死者の復活はないと言う人たち**」(Ⅰコリント**15:12**)がいたからです。ここでの「死者の復活」というのは、私たち人間の「からだのよみがえり」のことを言っています。私たちは「使徒信条」で、「からだのよみがえり・・・を信ず」と告白しています。聖書は、すべての人間が、イエス様が再びこの地上に来られる最後の審判の時に「からだのよみがえり」を経験すると教えています。クリスチャンであっても、未信者であっても。すべての人間が、「からだ」をもって、イエス様の前に最後の審判を受け、救いと滅びを宣言されるのです。

パウロは、「**もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう**」(Ⅰコリント**15:13**)と言っています。パウロによれば、私たち人間の「からだのよみがえり」を信じないことは、キリストの復活も否定することになるのです。逆に言えば、キリストの復活があるからこそ、私たち人間の「からだのよみがえり」があるのです。

このようにコリント教会の中には、「死者の復活はない」と言い、キリストの復活までも否定しかねない考えを持つ人たちがいたのです。ですからパウロは、パウロがコリント教会に伝えた「福音」をもう一度伝え、正しい「福音」へと立ち帰らせようとしたのです。

パウロがコリント教会に伝えた「福音」は、3節にあるように、パウロも「**受けたこと**」でした。パウロがコリント教会に伝えた「福音」は、決してパウロが考え出したものではありません。それは、「教会」が受け継いできたものです。旧約聖書が預言し、イエス様によって実現し、イエス様によって「教会」に委ねられた「福音」なのです。

「教会」は、「福音」を受け継いでいかなければなりません。自分が受けた「福音」を、次の世代に受け継いでいかなければなりません。そしてその「福音」が正しく受け継がれていくために、何度も「福音」を伝えていかなければならないのです。「福音」は一度聞いたら終わりではなく、その正しさを守るために、何度も聞く必要があるのです。

2節には、「**私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます**」とあります。「福音」は、私たちが救う力があります。しかし「福音」によって救われるためには、パウロが伝えた「福音」を「しっかりと覚えて」いなければなりません。「福音」には、「無駄になってしまう」信じ方もあるのです。つまり救われない信じ方もあるのです。それは、パウロが伝えた「福音」ではない、正しくない「福音」を信じることです。私たちが救われるためには、パウロが伝えた正しい「福音」を信じなければなりません。

2. 福音の内容

では、パウロが伝えた正しい「福音」とは何でしょうか。それが3-5節に書かれています。「**私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、またケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです**」。

パウロが伝えた正しい「福音」とは、大きく分けて二つのことです。それは、イエス様の「十字架」と「復活」です。私たちが救われるためには、この二つのことを信じなければなりません。

まず「十字架」ですが、イエス様が十字架に架かって死なれたことは、歴史的な事実として受け入れられていることです。しかしイエス様が十字架に架かって死なれたことを信じるだけでは、私たちは救われません。まず第一に、イエス様の十字架は「聖書に書いてあるとおりに」に起こったことであるということ信じなければなりません。つまり、イエス様の十字架は、旧約聖書で預言されていたことであると信じなければなりません。

第二に、イエス様は、「私たちの罪のために」十字架に架かって死なれたことを信じなければなりません。つまり、イエス様は自分の罪のために十字架に架かられたことを信じなければなりません。イエス様の死は、私たちの罪を償うための死です。イエス様は、私たちの罪に対する神様の怒りと呪いを、呪われた十字架においてただお一人で受けられたのです。そして私たちに「罪の赦し」と「永遠のいのち」を与えようとしたのです。

イエス様の十字架が、「私たちの罪のため」であることを信じるためには、私たちは自分の罪を認めなければなりません。「罪」とは、神様に従わないことであり、神様を愛さないこと、隣人を愛さないこと、自己中心に生きることです。この罪の性質が、自分の内にもあること、この罪のゆえに、自分は神様の裁きを受けなければならないことを認めな

い限り、イエス様の十字架を本当の意味で信じることはできません。

第三に、イエス様は「キリスト」であると信じなければなりません。「キリスト」とは、「救い主」「メシア」のことです。イエス様は、私たちから罪から救ってくださる「救い主」であると信じなければなりません。

次に「復活」についてですが、復活についてもまず第一に、「聖書に書いてあるとおり」、イエス様が死からよみがえったことを信じなければなりません。イエス様の復活は、旧約聖書で預言されていたことなのです。

「復活」は、十字架とは違って歴史的な事実として受け入れられていることではありません。イエス様の復活は、それ自体信すべきことなのです。イエス様は「三日目によみがえられた」とありますが、ギリシヤ語では「よみがえらされた」という意味です。イエス様は、父なる神様によみがえらされたのです。イエス様がよみがえらされたということは、イエス様の十字架の従順が父なる神様に完全に受け入れられ、「義」を獲得されたことを意味します。そしてイエス様こそ「神の子」であることの証拠です（ローマ1：4）。イエス様は、十字架の従順によって「義」を獲得されたことの証拠として「復活」され、その獲得された「義」を、イエス様を信じる者たちに分け与えてくださるのです。それゆえに私たちは、イエス様を信じる時に、父なる神様から義と認められるのです。

イエス様がよみがえられたということは、過去によみがえったということだけではなく、今も生きているということの意味します。私たちは、イエス様が今も生きていて、私たちのために絶えずとりなし、聖霊を通して今も私たちのうちに生きておられることを信じなければなりません。

またイエス様は、ペテロと十二弟子に現れ、彼らを通して「教会」を建て上げられました。イエス様の復活を信じるとは、「教会」をも信じることです。イエス様は、復活を通して教会を建て上げられたのです。

おわりに

今日は、「福音」について学びました。「福音」は、私たちを救う力があります。「福音」の中で「最も大切なこと」は、「十字架」と「復活」です。私たちは、イエス様の十字架と復活を信じる時、救われるのです。しかもそれが「私たちのため」であることを信じなければなりません。神の子であるイエス様は、私たちの罪のために十字架で死なれ、私たちを義と認めるために復活されたのです。

私たちはこの「福音」から決して離れてはいけません。教会は、この「福音」を次の世代に受け継いでいかなければなりません。そのため、何度でも「福音」を語らなければなりません。「福音」には、「無駄になってしまう」信じ方もあるのです。この「福音」から離れた別の「福音」を信じる時に「無駄になってしまう」のです。私たちの信仰が決して無駄にならないために、私たちは何度でも「福音」を聞き、2,000年の時を経て「教会」で受け継がれてきた「福音」から決して離れてはならないのです。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたが遣わされたイエス様は神の子であり、私たちの罪のために十字架で死なれ、私
たちを義と認めるために復活されました。私たちがこの教会で受け継がれて来た「福音」
から離れることなく、救いに与ることができますように。私たちが決して無駄になってし
まう信じ方をしないように。そして次の世代に「福音」を正しく受け継いでいくことがで
きますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。